

第12回

鹿角市民俗芸能フェスティバル

令和8年 **12月6日（日）**

開場12:30　開演13:00

鹿角市文化の杜交流館 コモッセ 文化ホール

秋田県鹿角市花輪字八正寺13番地

全席指定（未就学児入場不可）

入場料 **800円**（当日 1,000円）

●チケットのお求めはこちらで

- 鹿角市文化の杜交流館　TEL0186-30-1504
- 十和田市民センター　・八幡平市民センター
- 尾去沢市民センター　・小坂町セパーム
- ほくしか鹿鳴ホール

※会場内での撮影・録音はご遠慮ください。

主　催｜鹿角市・鹿角市教育委員会　　企画運営｜鹿角市芸術文化協会

問い合わせ｜鹿角市文化の杜交流館 コモッセ　TEL:0186-30-1504
鹿角市芸術文化協会 川又　TEL:090-3759-4744

※託児を希望する場合は11/28までに
「かづのファミリーサポートセンター」
（TEL0186-30-0855）へお申し込みください。

出演団体紹介

毛馬内の盆踊（十和田地区／ユネスコ無形文化遺産・国指定無形民俗文化財）

毛馬内の盆踊は篝火をたき、その周りを細長い輪となり情緒豊かに踊る。踊り手の衣装は、着物の裾を端折り、女性は鴇色、男性は水色の蹴出しをつけ、男女ともに豆絞りの手拭で口元を隠し、あごの下で結ぶ独特の頬被りをする。演目は大太鼓と笛の囃子にあわせて踊る「大の坂踊り」と歌にあわせて踊る「甚句踊り」が伝承され、これらのあとに「じょんから踊り」を踊りその日の盆踊を締めくくる。

近年は、園児から小・中学生、鹿角高校伝統芸能同好会の生徒まで後継者育成に取り組んでいる。

開催日：8月21～23日　会場：毛馬内こもせ通り

谷内天照皇御祖神社先祓舞（八幡平地区／市指定無形民俗文化財）

谷内先祓い舞は、鹿角市八幡平谷内地区に伝承される市指定無形民俗文化財で天照皇御祖神社の祭礼において、神輿の巡幸に先立ち、その道筋を清める祓いの舞いである。宝暦年間（1750年代）に兄川稲荷神社から伝わったとされ、「兄川舞」とも呼ばれている。太鼓、笛、鉦の囃子に合わせ、太刀と扇子を手に、地域の安寧と五穀豊穣を願いながら舞い継がれている。当地域でも少子化の景況により継承が厳しい状況となっているが、親の会や保存会の熱意により続けられている。

開催日：8月15・16日　会場：天照皇御祖神社・谷内地区

花輪の町踊り（花輪地区／県指定無形民俗文化財）

花輪の町踊りは、８月下旬から中秋の名月頃まで、秋の気配が深まる花輪の町通りで篝火を囲みながら踊りが繰り広げられる。町踊りの由緒･起源は定かではないが、三味線、太鼓の囃子と歌につれての洗練された踊りの所作、足の運びは男舞と考えられ、振りは手数が多くテンポも軽快で、優雅な手振りは緩急の変化に富み、粋でいなせな江戸情緒を今に伝えている。伝承曲は、「甚句」、「花輪よされ」、「おやまこ」、「花輪よしこの」、「塩釜」、「毛馬内よしこの」、「ぎんじがい」、「あいやぶし」、「おいと」、「どっこいしょ」、「豊年満作」、「ちょうし」の12曲がある。

開催日：花輪ばやし終了後　中秋の名月迄の間

特　別　出　演

三本柳さんさ踊り（岩手県盛岡市／岩手県指定無形民俗文化財）

さんさ踊りは、江戸時代初期の盛岡城下形成の頃から、盛岡や三本柳など周辺地域の民衆の盆踊りとして踊られてきた。三本柳さんさ踊りは文化文政の頃、盛岡藩11代藩主 南部利敬公から伝承奨励の巻物を授かり、主に盆の先祖供養に踊り伝承されてきた。江戸時代から近郷近在に指導した歴史があり、さんさ踊りの源と云われている。

衣装は蓮華の花をつけた妻折笠、五色帯、手甲、脚絆、わらじの巡礼姿で、振りは踊りの原型を残しているといわれるナンバに踊り、低く沈み込んだ体勢からの跳躍が特徴。33の演目と祝福芸を２演目伝承している。

大館曲げわっぱ太鼓（秋田県大館市）

大館曲げわっぱ太鼓は、1984年、大館の地場産業であり国の伝統的工芸品でもある曲げわっぱに皮を張った太鼓を考案、結成された。以来、国内和太鼓コンクールにおいて優勝を重ねる他、市内小中学校への指導、大館市教育委員会主催の達人講座の開設など、普及活動にも取組み、秋田県芸術選奨ふるさと文化章を受賞。

曲げわっぱの太鼓の音を郷土の音とし、秋田犬やきりたんぽといった大館の宝を取り入れた演奏は、全国から注目を集めている。